

# 令和2年度 弘前市総合教育会議

## 資料

日時 令和3年1月27日

場所 弘前市岩木庁舎 会議室3

## 目 次

- ・ 協議事項 「教育行政」について

- (1) 特別支援教育への対応について

- ..... P1 ～ P2

- (2) GIGAスクール構想実現に向けて

- ..... P3 ～ P10

- ・ 情報提供

- ..... P11 ～ P14

弘前市総合教育会議 資料

(1) 特別支援教育への対応について

教育センター

## 特別支援教育の現状と課題

### ◇ 就学後の特別支援教育

※多様な子どもたちの特性等に応じた学びの場の設置（整備）及び対応

#### ①現状

\*教育の現場では、現在、発達に障害のある子ども、または発達障害の存在が疑われる子どもが増加していると感じている。

- ・自閉症スペクトラム障害（ASD）、注意欠如・多動性障害（ADHD）の子どもたちが通常の学級にある程度在籍し、指導の難しさから学校からの特別支援教育支援員の配置要望が増えている。
- ・特別支援学級担任による指導・支援を受ける校内通級や教育委員会が設置する校外通級、いわゆる通級指導教室で指導・支援を受けている児童生徒も増えている。
- ・多様な困り感をもつ児童生徒個々に合った学びの場を「教育支援委員会」（教育センター内に設置）という附属機関が調査審議し、教育委員会に報告する。当該児童生徒の保護者や学校に決定通知することとなっている。
- ・教育センターは、学びの場などに関する相談窓口にもなっており、相談件数、弘前市教育支援委員会への審議依頼件数が増加している。

#### ②特別支援学級

\*知的障害、自閉症・情緒障害、弱視、難聴、肢体不自由等の特別支援学級を設置している。

- ・特別支援学級を基盤として、通常の学級との交流学习等を行いながら指導が行われている。

#### ③通級指導教室

\*通常の学級に在籍し、学習や学校生活で困り感のある児童生徒が指導を受けている。

- ・設置校は小学校が大成小学校、岩木小学校、中学校が東中学校（教育センター内）と津軽中学校（岩木公民館内）に、また、令和2年度より福村小学校（教育センター内）に増設している。
- ・通級指導教室の需要は増える見込みである。可能な限り増設をしていきたい。

#### ④課題

\*就学時、我が子に適した学びの場（特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室・通常の学級）を求めた教育相談や審議依頼がとても多くなっている。寄り添いながら適切な相談、調査審議に結び付けなければならない。

\*就学時のみならず、就学後、年度途中での学びの場に関する審議依頼が増加しており、その審議（判断）を迅速に行っていかなければならない。

\*通常の学級に在籍する困り感のある児童生徒自身とその保護者が苦悩しているのはもちろん、周囲の児童生徒や担任をはじめ、関わる職員みんなが苦悩している現状の中で、どうすることが現状脱却に近づくのか常に問い続けなければならない。

弘前市総合教育会議 資料

(2) GIGAスクール構想実現へ向けて

学校整備課

学校指導課

## GIGAスクール構想実現へ向けて

### 1. 事業概要

GIGAスクール構想のGIGAとは、Global and Innovation Gateway for Allの頭文字を取った略称。

児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を持続的に実現する。

### 2. 事業内容

令和2年度末までに1人1台端末としてクロームブック8,998台を導入し、市立小・中学校47校（小友小、三和小を除く。常盤野小中は1校とした）にWi-Fi環境を構築する。

事業名	対象校・台数	業務期間
令和2年度 教育用コンピュータ等購入及び設定業務1	小学校6年生及び中学校3年生、2,409台	R2.9.10～R3.3.26
令和2年度 教育用コンピュータ等購入及び設定業務2	国庫補助対象分、4,590台	R2.9.18～R3.3.26
令和2年度 教育用コンピュータ等購入及び設定業務3	地方財政措置分、1,999台	R2.9.18～R3.3.26
令和元年度 弘前市立小・中学校校内通信ネットワーク整備業務1	小・中学校24校	R2.7.23～R3.3.19
令和元年度 弘前市立小・中学校校内通信ネットワーク整備業務2	小・中学校23校	R2.9.11～R3.3.19

上記のほか、12月補正予算を計上し、下記事業を実施予定。

#### ■ インターネット回線増設

端末増に伴い、インターネットを閲覧するための回線を4回線増設。

#### ■ 端末予備機500台購入

「教育用コンピュータ等購入及び設定業務4」を発注。

#### ■ GIGAスクールサポーター配置

端末を使用するにあたり、マニュアルの作成、集合研修の実施等を業務委託。

#### ■ 入出力支援装置購入

障がいにより端末の入出力自体に困難を抱えた児童生徒のための支援装置の整備を行う。

#### ■ フィルタリングソフト導入、カメラ・マイク購入

#### 4. ICT活用教育推進事業

当市ではこれまで、ICT活用教育として、子どもたちのコンピュータ操作方法の習得、情報活用能力の育成などを行ってきましたが、今後は更に、ICTの活用を視点とした授業改善・授業づくりが求められています。

そこで、教育委員会では、平成26年度に調査研究を行い、「よくわかる授業づくり」と「どの子ども共に学べる環境づくり」を目指し、「弘前式」ICT活用教育推進事業に取り組むこととしました。

この事業では、**実物投影机・電子黒板機能付きプロジェクター・教員用タブレット型端末**に校内無線LANをセットにした『弘前式』ICT3点セット』を全ての教室に整備し、インクルーシブ教育の理念を基に、無理負担なく、ツールとして日常的にICT機器を活用できるよう、ICT支援員によるサポートを受けながら、ICT活用授業に取り組むことで、目指す姿に近づくことを狙いとしています。

##### 【取組状況】

###### <平成27年度>

- ・モデル校による調査研究の実施及びICT活用推進モデルルームの開設

モデル校：弘前市立大成小学校、相馬小学校、第三中学校、相馬中学校

整備状況：「弘前式」ICT3点セット 50セット

大成小学校 16セット 相馬小学校 9セット

第三中学校 18セット 相馬中学校 3セット

モデルルーム 4セット

ICT支援員：2名配置。授業支援のほか、教材作成、授業提案などを実施

- ※ 民間からの寄付金を財源として、常盤野小中学校教育環境整備等事業として「弘前式」ICT3点セット等の整備やICT支援員による支援を実施

###### <平成28年度>

- ・モデル校による調査研究の実施（2年目）
- ・モデル校以外の全ての学校に、実物投影机及び電子黒板機能付きプロジェクターを学級数の1/3の割合で整備（179セット）

###### <平成29年度>

- ・市立全小・中学校で整備したICT機器を活用した授業を実践
- ・これまで整備したICT機器に関する効果測定を業務委託により実施

- ※ ひろさき地方創生パートナー企業制度により民間企業から事業提案を受けて、児童1人につき1台のタブレット型端末を活用した授業実践に取り組む、「次世代のひろさきICT活用教育チャレンジプロジェクト」を高杉小学校、文京小学校、千年小学校をモデル校として実施

###### <平成30年度>

- ・市立全小・中学校で整備したICT機器を活用した授業を実践
- ・平成29年度に引き続き「次世代のひろさきICT活用教育チャレンジプロジェクト」を実施
- ・全国ICT教育首長協議会が民間企業の協力を得て実施する「Microsoft Education」ステップモデル校プロジェクトに第三大成小学校が参加

###### <令和元年度>

- ・平成28年度に引き続き実物投影机及び短焦点プロジェクターを整備（303セット）
- ・民間企業と無線LAN環境に関する調査研究を千年小学校で実施

# 「1人1台端末・高速通信環境」がもたらす学びの変容イメージ

## GIGAスクール 構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要としない子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの教育実践の蓄積 × ICT =

学習活動の一層充実

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

### 「1人1台端末」ではない環境

教師が電子黒板等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる

全員が同時に同じ内容を学習する（一人一人の理解度等に応じた学びは困難）

グループ発表ならば可能だが、自分独自の意見は発信しにくい（積極的な子はいつも発表するが、控えめな子は「お客さん」に）

学びの  
深化



学びの  
転換



### 「1人1台端末」の環境

教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる  
→ 子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に

各人が同時に別々の内容を学習できる  
各人の学習履歴が自動的に記録される  
→ 一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能に

一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる  
各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる  
→ 全ての子供が情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる



### 「1人1台端末」の活用によって充実する学習の例

- ☑ 調べ学習 課題や目的に応じて、インターネット等を用い、記事や動画等の様々な情報を主体的に収集・整理・分析
- ☑ 表現・制作 推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作
- ☑ 遠隔教育 大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び
- ☑ 情報モラル教育 実際に真贋様々な情報を活用する各場面（収集・発信など）における学習





## 目的

「1人1台端末」の早期実現や、家庭でも繋がる通信環境の整備など、「GIGAスクール構想」におけるハード・ソフト・人材を一体とした整備を加速することで、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、**ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早急に実現**

## 児童生徒の端末整備支援

○ 「1人1台端末」の早期実現 **1,951億円**

令和5年度に達成するとされている**端末整備の前倒しを支援**、令和元年度補正措置済（小5,6,中1）に加え、残りの中2,3,小1～4すべてを措置

対象：国・公・私立の小・中・特支等  
国公立：定額（上限4.5万円）、私立：1/2（上限4.5万円）

○ 障害のある児童生徒のための入出力支援装置整備 **11億円**

視覚や聴覚、身体等に障害のある児童生徒が、端末の使用にあたって必要となる**障害に対応した入出力支援装置の整備を支援**

対象：国・公・私立の小・中・特支等  
国立、公立：定額、私立：1/2

## 学校ネットワーク環境の全校整備

**71億円**

整備が可能となる未光地域やWi-Fi整備を希望し、令和元年度補正に計上していなかった**学校ネットワーク環境の整備を支援**

対象：公立の小・中・特支、高等学校等  
公立：1/2

## GIGAスクールサポーターの配置

**105億円**

急速な学校ICT化を進める自治体等を支援するため、**ICT関係企業OBなどICT技術者の配置経費を支援**

対象：国・公・私立の小・中・高校・特支等  
国立：定額、公立：1/2

## 緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備

○ 家庭学習のための通信機器整備支援 **147億円**

Wi-Fi環境が整っていない家庭に対する貸与等を目的として自治体が行う、**LTE通信環境（モバイルルータ）の整備を支援**

対象：国・公・私立の小・中・特支等  
国公立：定額（上限1万円）、私立：1/2（上限1万円）

○ 学校からの遠隔学習機能の強化 **6億円**

臨時休業等の緊急時に学校と児童生徒がやりとりを円滑に行うため、**学校側が使用するカメラやマイクなどの通信装置等の整備を支援**

対象：国・公・私立の小・中・高校・特支等  
公私立：1/2（上限3.5万円）、国立：定額（上限3.5万円）

○ 「学びの保障」オンライン学習システムの導入 **1億円**

学校や家庭において端末を用いて学習・アセスメントが可能な**プラットフォームの導入に向けた調査研究**

## 施策の想定スキーム図



※上記は公立及び私立のイメージ、国立は国が直接補助

# G I G A スクール構想の実現に向けて ～ 1人1台教育用コンピュータの整備について～

弘前市教育委員会

### G I G A スクール構想

1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する

これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す



(引用:「G I G A スクール構想の実現へ」文部科学省より)

## 弘前市では・・・

令和元年度	令和2年度	令和3年度
大型提示装置（プロジェクター）と実物投影機を普通教室に1台ずつ整備	高速通信ネットワーク及び無線LANを整備 児童生徒1人1台の教育用コンピュータを整備	校内における1人1台の教育用コンピュータの活用の推進
	Chromebook の使い方のマニュアルを作成し、研修会を実施予定	ICT支援員を6名（予定）配置し、各校に出向いて支援を実施

### Chromebook の利点について

- 低コストで管理しやすい
  - セキュリティが万全
  - すばやく起動し、常に高速
  - アプリが豊富
- \*ロイロノートや Microsoft Office も利用できます。



Google Classroom  
(課題の受け渡し、管理)

ドキュメント (文書作成)	スプレッドシート (表計算)	スライド (プレゼンテーション)	ドライブ (資料データ保管)	フォト (写真整理、保存)	Keep (メモ、音声メモ等の記録)
Gmail (メールサービス)	Google meet (ビデオ対話)	YouTube (動画検索、再生、共有)	Chrome (ウェブブラウザ)*	図形描画 (図形作成)	フォーム (質問フォーム作成) など

1人1台の教育用コンピュータを活用することで、学習活動の一層の充実や授業改善につながる事が期待されます。(具体例は裏面を)

# 1人1台教育用コンピュータの活用について

## ～学校編～

弘前市教育委員会

\*\*\*\*\*

GIGAスクール構想に基づく整備が進み、これまでの先生方の教育実践の蓄積とICTの活用をうまく組み合わせることで、多様な子どもたち一人一人の資質・能力を育成する学習活動を充実することができます。

\*\*\*\*\*

ICTの活用により、こんな学習の充実につながります・・・



【調べ学習】



【表現・制作】



【情報モラル教育】



【話し合い活動】

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を図るツールの一つとして（活用例）



画像や動画で視覚的に伝えたり、学習活動を焦点化したりするだけでなく、双方向で考えの共有をする。



写真や動画等、多様な表現を取り入れながら、自分の考えを整理し、資料や作品を制作する。



インターネットやデジタル教材等を用いて情報を収集し、学習課題に関する調査を行う。



学習課題に対する自分の考えを画面に提示して、発表や話し合いを行う。



コンピュータ等を用いて、意見や考えを共有し、協働で意見整理をする。



グループで分担したり、協働で作業したりしながら資料や作品を制作する。



学習した活動を記録し、記録したデータを見ることで課題解決のポイントを確認する。



ICTを活用して苦手さを補うなど、個々の学習上の困難さに応じた支援を行う。

その他の活用方法・・・学校行事、児童会・生徒会活動、各種アンケートなど


## 《教員・児童生徒・保護者共有のガイドライン 例》

## 「教育用コンピュータの活用ルール」について

令和 年 月 日

弘前市立〇〇〇〇学校

学習内容をよく理解し、より豊かな学びにしていくために、教育用コンピュータを上手に活用していくことが大切です。教育用コンピュータは学習に役立てるための道具です。大変便利な道具ですが、心配されることもあります。そのため、「教育用コンピュータの活用ルール」を定めました。このルールを守り、教育用コンピュータを「安心・安全・快適」に活用していきましょう。

1 目的	教育用コンピュータは、学習活動のために使うことが目的です。
2 基本的な約束事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用前には手を洗います。</li> <li>・なくしたり、こわしたりしないように大切に使います。</li> <li>・先生の指示をよく聞き、決められた時間で使います。</li> <li>・休み時間や放課後は、先生が認めたことに使います。</li> </ul> 
3 保管	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められた充電保管庫に入れます。</li> </ul>
4 健康のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用するときは、正しい姿勢で、画面に近づきすぎないように気を付けます。</li> <li>・30分に一度は遠くの景色を見るなど、ときどき目を休めます。</li> </ul>
5 安全な使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットには制限がかけられていますが、もしもあやしいサイトに入ってしまったときはすぐに先生に知らせます。</li> </ul>
6 個人情報など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人のIDやパスワードは他人に教えたり、使わせたりしません。</li> <li>・自分や他人の個人情報はインターネット上に絶対にあげません。</li> <li>・相手を傷つけたり、いやな思いをさせたりすることを絶対に書き込みません。</li> <li>・先生が許可したときにカメラを使い、誰かを撮影するときは、許可をもらいます。</li> </ul>
7 データの保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に活用したデータを決められた場所に保存します。また、先生が許可していないデータは保存しません。</li> </ul>
8 設定の変更等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デスクトップや背景の画像、色などの設定は勝手に変えません。</li> <li>・学校から指示のないファイルのダウンロードやソフトのインストールは行いません。</li> </ul>
9 不具合や故障	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータが使いえなかったり、こわれたりしたときはすぐに先生に知らせます。</li> </ul> <p>※故障、破損における事由によっては、修理代を負担していただく場合があります。</p>

弘前市総合教育会議 資料

情報提供

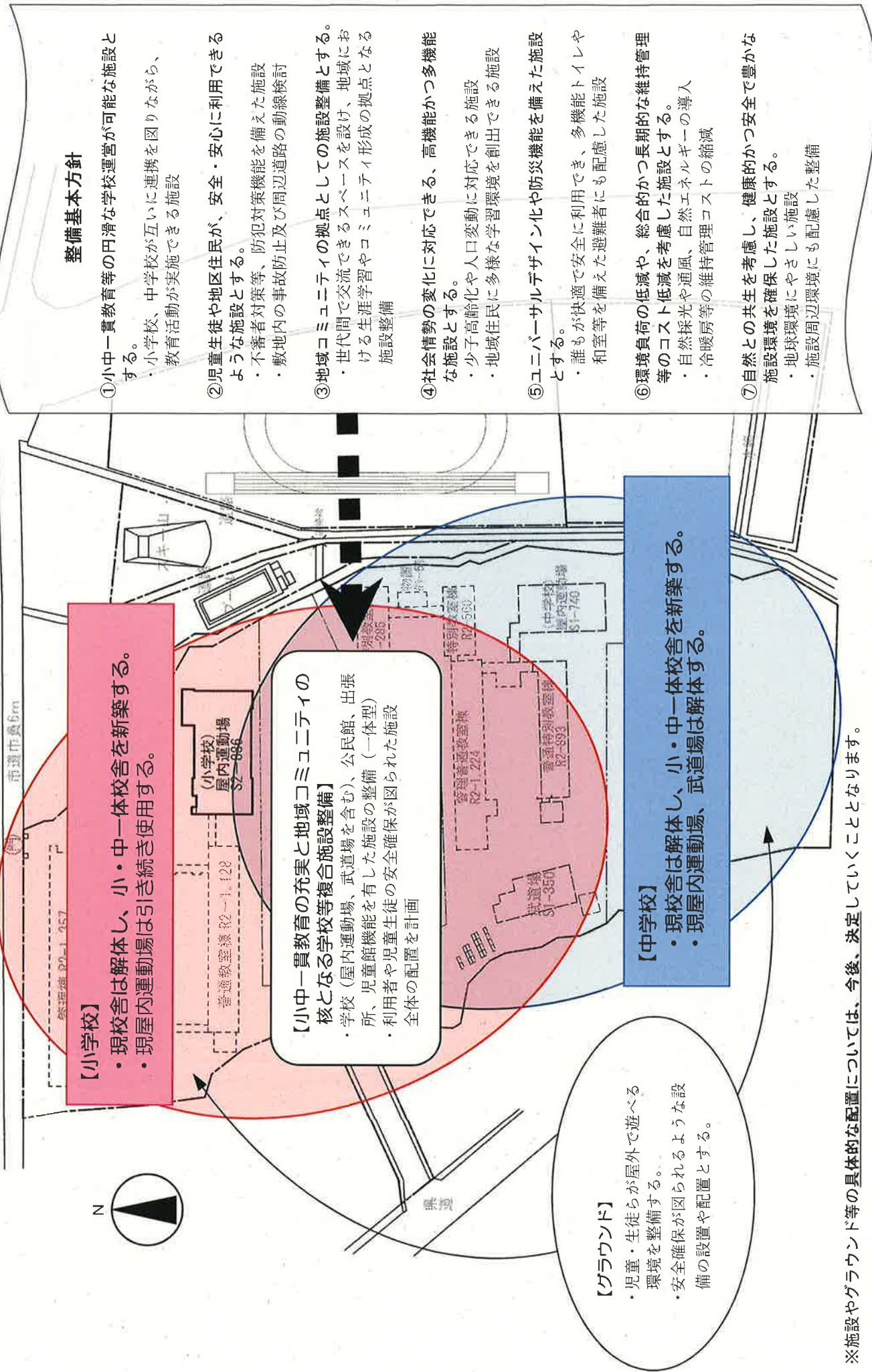
学校整備課

### 石川小・中学校等複合施設整備事業に関するスケジュール

令和2年	<p>5月 石川地区連合町会へ説明会開催</p> <p>6月 石川中学校区学校運営協議会での説明会及び意見交換会</p> <p>7月 石川小・中学校等整備事業に関するPTA・住民説明会 石川中学校区学校運営協議会での説明会及び意見交換会(2回目) 石川小・中学校等整備事業に関するPTA・住民説明会(2回目)</p> <p>→<b>基本構想策定完了</b></p> <p>12月 提案内容の審査(第1次、第2次)</p> <p>→ <b>設計者決定</b> (教育施設研究所・三上設計 設計共同体)</p>
令和3年	<p>1月 石川小・中学校等複合施設に関する設計業務 着手 (基本設計、実施設計、解体工事設計 約15ヶ月)</p>
令和4年	<p>石川小・中学校等複合施設に関する設計業務 完了</p> <p>※中学校校舎解体工事 着工</p> <p>石川小・中学校等複合施設<b>新築工事 着工</b></p>
令和5年	<p>グラウンド等外構整備設計業務 着手</p>
令和6年	<p>石川小・中学校等複合施設<b>新築工事 完了、新築建物へ引越し、 供用開始</b></p> <p>※小学校校舎解体工事 着工</p> <p>グラウンド等外構工事 着工</p>

※印の工事・業務は、設計内容により実施時期が変わる可能性あり。

# 【石川小・中学校等複合施設整備事業 基本構想】



**【小学校】**

- ・現校舎は解体し、小・中一体校舎を新築する。
- ・現屋内運動場は引き続き使用する。

**【小中一貫教育の充実と地域コミュニティの核となる学校等複合施設整備】**

- ・学校（屋内運動場、武道場を含む）、公民館、出張所、児童館機能を有した施設の整備（一体型）
- ・利用者や児童生徒の安全確保が図られた施設全体の配置を計画

**【中学校】**

- ・現校舎は解体し、小・中一体校舎を新築する。
- ・現屋内運動場、武道場は解体する。

**【グラウンド】**

- ・児童・生徒らが屋外で遊べる環境を整備する。
- ・安全確保が図られるような設備の設置や配置とする。

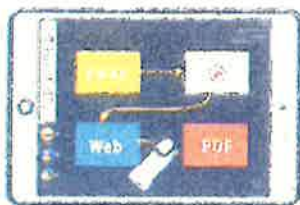
**整備基本方針**

- ①小中一貫教育等の円滑な学校運営が可能な施設とする。
  - ・小学校、中学校が互いに連携を図りながら、教育活動が実施できる施設
- ②児童生徒や地区住民が、安全・安心に利用できるように施設とする。
  - ・不審者対策等、防犯対策機能を備えた施設
  - ・敷地内の事故防止及び周辺道路の動線検討
- ③地域コミュニティの拠点としての施設整備とする。
  - ・世代間で交流できるスペースを設け、地域における生涯学習やコミュニティ形成の拠点となる施設整備
- ④社会情勢の変化に対応できる、高機能かつ多機能な施設とする。
  - ・少子高齢化や人口変動に対応できる施設
  - ・地域住民に多様な学習環境を創出できる施設
- ⑤ユニバーサルデザイン化や防災機能を備えた施設とする。
  - ・誰もが快適で安全に利用でき、多機能トイレや和室等を備えた避難者にも配慮した施設
- ⑥環境負荷の低減や、総合的かつ長期的な維持管理等のコスト低減を考慮した施設とする。
  - ・自然採光や通風、自然エネルギーの導入
  - ・冷暖房等の維持管理コストの削減
- ⑦自然との共生を考慮し、健康的かつ安全で豊かな施設環境を確保した施設とする。
  - ・地球環境にやさしい施設
  - ・施設周辺環境にも配慮した整備

※施設やグラウンド等の具体的な配置については、今後、決定していくこととなります。







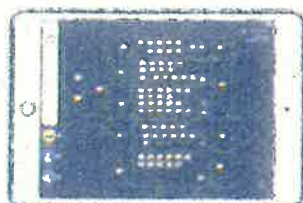
### カードをつなげるだけ

自分のいろいろな考えをカードに書き出しましょう。  
そのカードを線でつなげるだけで伝わりやすい順番に並べることができるから、授業中の短い時間で自分の考えをまとめることができます。



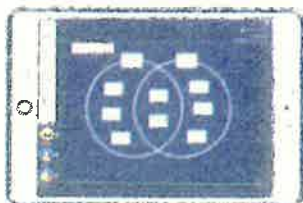
### 作ったカードはクラスで共有

作ったカードを先生に提出したり、生徒同士で交換しましょう。  
提出されたカードを使って発表したり、友だちのカードを見たり、比較することで学び合いが生まれます。



### 蓄積されてポートフォリオになる

先生からの資料、実験の動画、授業中の発表やプレゼン、振り返りなど、授業のすべてがノートいっぱいに蓄積され、ポートフォリオができていきます。  
そのポートフォリオを振り返ることで自分自身の成長が実感できるから、子どもたちの学習意欲があふれ出します。



### 思考力を育む

シンキングツール上にアイデアを書き出しましょう。  
シンキングツールは「考える」パターンを図で表しています。  
繰り返しアイデアから考えをつくり出すことで、思考力を育むことができます。

〔特許出願中〕

導入サポートもおまかせください！



研修会の実施や他校事例のご紹介はもちろん、  
メールや電話、LINE@でいつでも直接先生方のサポートをします。

#### クラウドでラクラク運用

インターネット接続ができれば、すぐに使い始めることができます。  
自分のIDでログインするだけで、学校でも自宅でも、いつでもどこでも  
自分だけのデータを使って作業することができます。

お問い合わせはこちら



0120-610-496

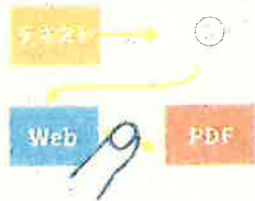


loilo@loilo.tv

# シンプルで使いやすい機能

## 考えをまとめ発表する

カードをつなげて構成



簡単に試行錯誤できる

## 双方向で授業がすすむ

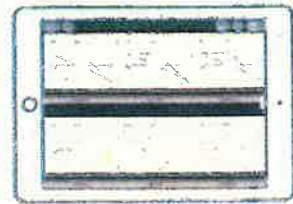
全員の回答を表示



先生が添削して  
生徒一人ひとりに返却

## 学びあう

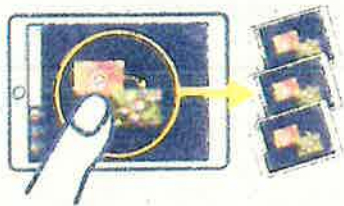
回答を比較する



誤答・正答で授業

## 教材を配付する

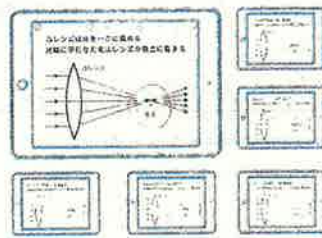
一斉配付された資料を  
一人ひとりが受信



個別の受信にも対応

## 画面を配信する

先生の板書をリアルタイム配信



発表する生徒の画面も配信

## 協働で学習する

情報を共有し、自ら考え学ぶ



生徒同士でカードを送りあう

## 先生が 生徒の今の状態を把握

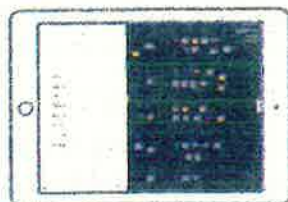
先生は画面をロックできる



授業に集中する環境づくり

## 授業の記録が残る

予習・授業・復習のカードを  
一括管理



## カードの書き出し

他のアプリでの使用や  
印刷が可能

